

# 生産管理を記録

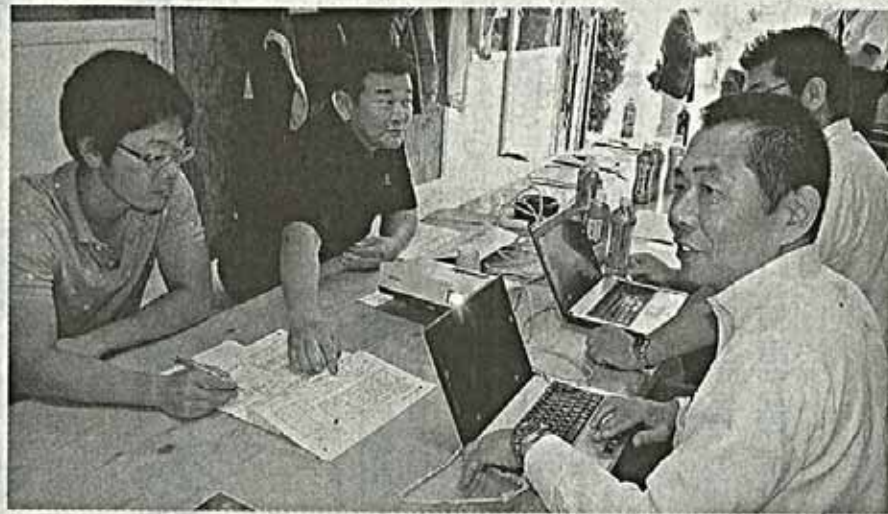
コンサル支援  
市内2農場  
次世代に技術継承

帯広市内の道下広長農場（以平町、道下公浩社長）、中村農場（稲田町、中村正信代表）の2農場が今年、日本能率協会コンサルディング（東京）のコンサルタントを受け、経営改善に取り組んでいる。農業の生産技術を「見える化」して次世代に引き継ぐこと、実証実験として生産管理などをデータ化し、検証する手法の確立を進めている。

同社は社団法人日本能率協会（東京）の基幹部だったコンサルディング部門を分離独立させた企業。製造業など一般企業のコンサル業務を担ってきた同社は農業部門への進出を検討しており、帯広市の仲介もあって十勝で実験を行うことになった。

実験は昨年スタート。道下広長農場では収益拡大に

経営改善について話し合う日本能率協会コンサルディングの担当者（右）と道下社長（左から2人目）、息子の洋太さん（左



向け、作付けや作業の計画、作物の成長管理について改善を進めている。年間の作付計画をつくることで、農業機械の効率的な使用や作物の組み合わせ、出荷時に単価が上がる作付けのタイミングを検討する。

作物の成長管理では作物になぜ異常が起きたかや異常の兆しを作物ごとに記録し、翌年の作付計画に反映させる。

同社の系井大介シニア・プロジェクトマネジャーは「記録に残すことは企業の経営継承と同じ。将来は複

数戸で共同利用できるシステムをつくりたい」とし、来年から農業への参入を本格化する考え。道下社長は「今後、農業をやっていく上で財産になるデータができてきつつある」と話す。

中村農場ではネギの出荷加工施設の工程改善に取り組む。製造業のノウハウを取り入れ、作業の効率化を進める。中村代表も「昨年と比べ2割ほど能率的になった。経験で行ってきたことを数値化できるのは役立つ」と話している。

（眞尾敦）

## 受講者の9割合格

検定  
販売士  
帯商など  
対策講座  
今後にも継続検討へ

帯広商工会議所（高橋勝垣会頭）と帯広販売士会（見子雄一会長）が今年初めて

開講した販売士検定3級対策講座で、受講者17人のうち

10人が7月13日に同会議所で開かれた試験に挑み、9人が合格した。合格率90%は帯広会場平均47.2%

を大幅に上回り、主催者は来年度以降の対策講座継続も検討している。

販売士は日本商工会議所が認定する流通業での唯一の公的資格で、3級試験は販売員としての基本的知識や店舗経営の基礎などが問われる。